

マツキヨHD・ココカラ

## 21年10月に経営統合 売上、店舗数業界トップ

昨年から経営統合に向けた協議を開始していたマツキヨホールディングス（HD）とココカラファインは、正式に経営統合する契約を締結した。2021年10月1日の統合を目指す。新統合会社に向け、ココカラファインが発行する第三者割当増資をマツキヨHDが引き受け、1株当たり6460円で約20%の株式を取得。ココカラファインはマツキヨHDの持分法適用会社となる見込みだ。売上高1兆円規模の巨大ドラッグストアがいよいよ誕生することになった。

両社は、昨年から経営統合に向けた協議を行ってきたが、今後の目指す方向性が一致していることを確認できたことに加え、仕入れ面をはじめ想定以上の統合シナジーが見込めると判断し、正式に経営統合を決めた。経営統合後3年目をメドに、両社で数百億円規模の収益改善効果を

見込む。また、経営統合の一環として、両社が資本提携することも発表。ココカラファインが発行する第三者割当増資をマツキヨHDが引き受け、ココカラファインはマツキヨHDの持分法適用会社になる予定だ。統合新会社の代表者には、マツキヨHDの松本清雄社長が就任する方向で調整している。

両社の統合により、売上高は1兆円規模、店舗数は3000店を超え、いずれも業界トップとなる。調剤事業でも売上高は1000億円、拠点数も約600拠点となり、ドラッグストア業界で圧倒的なプレゼンスを獲得する。

今後、経営統合によって国内ドラッグストア業界の競争に勝ち残り、将来的には「美と健康」領域のアジアナンバーワンを目指していく考えだ。さらにドラッグストアとしての社会的使命も意識し、地域包括ケアシステムの構築も推進していく。

## 後発品シェア78.4%に伸長

### 厚労省 昨年7月の調剤費8%増

厚生労働省は、昨年7月の調剤医療費（電算処理分）の動向を公表した。それによると、調剤費は前年同期比8.0%増の6611億円、処方箋1枚当たりの調剤医療費は2.6%増の9077円となった。後発品の数量シェアは78.4%と引き続き伸長した。

調剤医療費の内訳を見ると、技術料が6.7%増の1689億円、薬剤料が8.5%増の4910億円となった。薬剤料のうち、後発品薬剤料は16.4%増の965億円だった。

薬剤料の多くを占める内服薬の処

方箋1枚当たり薬剤料は、2.9%増の5470円、処方箋1枚当たりの薬剤種類数は2.74種類、投薬日数は25日、1種類数1日当たり薬剤料は80円となった。

薬剤料の多くを占める内服薬は、307億円増の3984億円。薬効分類別で総額が最も高かった循環器官用薬は36億円増の738億円となった。伸び幅が最も高かったのは腫瘍用薬の75億円で、総額は364億円となった。

処方箋1枚当たりの調剤医療費を

## 考えよう！ キャリアデザイン



キャリア・  
ポジション社長

西鶴 智香

### 医療人として持つ死生観とは

②

前回、生と死を考えることが「自分の人生観」につながるとお伝えしました。学生さんの中には、「死を考えるなんて怖い」「なるべく考えないようにしている」という方もいらっしゃるでしょう。おそらく多くの日本人はそうなのではないかと思っています。

ある地方新聞社の意識調査では、自分や家族の死を考えた話したりすることに心理的抵抗感があると回答した人は、20～30代ではほぼ半数、65歳以上では30%強だったそうです。同じ調査で20～30代では「死について深く考えた経験がない」と回答した割合は32%でした。

日本人が死の話題をタブー視することについては、以前から社会学者らの多くの考察がありますし、日本では数字の「4」を不吉だと捉えます。一方、最近は自分で人生の仕舞いを準備する“終活”を積極的に行う中高年も増え、この調査でも65歳以上だと約半数が「終活をしている」と答えていました。

さて、皆さんは「人生会議」のことはご存知でしょうか。生と死に向き合う現場にいる医師たちが、人生

の最後に受けてみたい医療やケアを事前に家族や医師と話し合っておく「アドバンス・ケア・プランニング（別称「人生会議」）」を啓発する活動を始めています。

国民医療費が膨張する原因の一つに、人生の最期に決して本人が望まない医療サービスが過剰になされていることがあります。ではどうしたらいいのでしょうか。知り合いの医師は「人生の最期をどうしたいかは患者と家族が事前に話し合っておく。浸透させるにはまずタブー視の払拭が必要」と言います。

将来医療人になる皆さんも、生と死について自分なりの考えを持つことが、このような患者に向き合う大事な心構えになるのではないのでしょうか。そしてもう一つ、死を考えれば考えるほど自分自身が、今まで以上に生きることに一生懸命になれるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

都道府県別に見ると、最も高かったのは高知県の1万0924円で、最も低かったのは佐賀県の7806円だった。伸び率が最も高かったのは香川県の5.1%、最も低かったのは沖縄県で増減はなかった。

後発品薬剤料から後発品の割合を見たところ、数量ベースで78.4%、薬剤料ベースでは19.7%となった。

全処方箋枚数のうち、後発品を調剤した処方箋枚数の割合を示す後発品調剤率は74.1%だった。

都道府県別の後発品数量ベースは、沖縄県が87.4%と最も高かった一方、徳島県が71.3%と最も低かった。後発品調剤率についても沖縄県が82.6%と最も高く、東京都が69.4%と最も低かった。

自信があります！  
**合格力**  
Medisere SCHOOL

薬剤師国家試験対策予備校 **メディセレスクール**

**Medisere SCHOOL** 業界初!!

**演習型  
解説書**

考えながら学ぶ演習型過去問題集  
各問題が過去問ではどう問われていたか、  
演習問題を掲載。  
さらなるステップアップにチャレンジ!!

**4/24(金)  
発売予定**

**薬剤師国家試験  
第105回解説書**

**差が**

発売記念講座を全国で実施予定

**メディセレスクール本部**  
〒530-0014 大阪府大阪市北区鶴野町1-9 梅田ゲートタワー12F  
TEL: **06-6371-7711**

詳細・お申込みは  
こちらから >>



